

(2) 労務費計算(費目別計算)

- ①賃金を支払う(外部から「労務費」「支払」)
- ②作業日報や生産実績情報より、製品の生産実績毎の直接労務費を製造に払出す(「労務費」「消費」から「仕掛」「投入」)
- ③間接作業分を「製造間接費」BOXへ付替える (「労務費」「消費」から「製造間接費」「間接費分の振替」)
- ④その他の労務費振替(「労務費」「消費」から「損益」「売上原価」)
- ⑤原価差異が分かる(「労務費」「原価差異」から「損益」「売上原価」)

※以下は部門別計算・製品別計算ですが、労務費関連なのでここで記しておきます。

- ⑥他の費用と併せて間接費を纏める
- ⑦製造間接費の製造部門へ纏める(一次配賦)
(「製造間接費」「間接費分の振替」内で配賦計算)
- ⑧製造間接費を製造の製品へ配賦する(二次配賦)
(「製造間接費」「消費」から「仕掛」「投入」)

以上が労務費の費目別算です。

- ①の“金額”のデータは会計システムや給与計算システムから、
- ②～④の作業時間情報は、生産管理システム生産実績情報や、作業日報システムより入手します。

これに原価計算を施して「出庫」側の“**実際労務費レート**”(＝原価単価)を計算するのが労務費計算です。

- ②製品への振替単価は“**標準単価**”で行われます(標準原価計算モード)。

この時計算された“**実際レート**”と“**標準レート**”の差が

- ⑤「**原価差異**」(**単価差異**)データとして作られます。
- ③「**製造間接費**」は、製造部門以外の原価部門の労務費全額と部門共通費が基本的に振替金額となります。又設定により、製造部門の“**間接作業時間**”分が(実際単価により)振替金額に追加されます。
- ④その他労務費振替も③と同様に実際単価により売上原価に振替えられます。

